

流山市市民参加推進委員会の評価シート

対象事業名	流山市総合計画後期基本計画下期実施計画 まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）
担当課	企画政策課

① 市民参加の方法の選択について

<p>パブリックコメントの選択は妥当であるが、産・官・学等の代表者による創生会議だけでは、民意を汲むことは難しいのではないかと感じる。</p> <p>まち・ひと・しごと創生会議でフリートーキングを設け、意見を反映させたことは非常に評価する。また、パブリックコメントの意見を反映させたことも評価するが、1名から29件の意見提出というのは、決して良い成果ではないと考える。</p> <p>〈各委員からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち・ひと・しごと創生会議はわずか2回しか開催されておらず、構成メンバーも、大学教授、商工会議所、校長会など各種団体や組織の代表者であり、市民の声が十分反映できるものであったか疑問が残る。 ・計画の内容から多数の市民参加や意見の反映は困難と思われる。そのため、公募による選出委員を含む審議会でじっくりと議論する方が、市民参加の方法としては望ましい。 ・まち・ひと・しごと創生会議に市民選出の委員がいないため、パブリックコメント以外にもう一つ意見交換会などの手法を加えたほうが良かったのではないかと感じる。
--

② 市民参加の方法のスケジュールの妥当性について

<p>パブリックコメントの時期や、まち・ひと・しごと創生会議の開催時期や回数については、概ね妥当と判断する。</p> <p>〈各委員からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・限られた条件のもとで市民参加を実施した感がみられるが、余裕があればもっと工夫できたのではないかと感じる。 ・当該計画については、公募による選出委員を含む審議会で十分議論することが望ましい。そのため、市民へ計画を事前周知し、公募による審議会を設置・審議するというステップを踏むために、必要な相当の期間を持つべきであったと考える。 ・本計画を市の実施計画に組み入れたがゆえに、その計画のスケジュールに縛られてしまっている。本計画のみのパブリックコメントであれば、もう少し余裕を持ったスケジュールが可能と考える。

③ 事業の内容や市民参加の仕組みに対する市民等への情報提供について

<p>この名称では、市民にとって市がどのようなことを計画しようとしているのか理解できない。市民の関心を引き、内容がわかるような名称を検討されたい。</p> <p>既に総合計画後期基本計画が定められており、国の予算で事業を進めることについては、もっと市民への情報提供の方法を工夫をすべきではなかったかと感じる。</p> <p>〈各委員からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この事業は「まち・ひと・しごと創生法」に基づいて、市民生活に大きな影響をもたらす総合計画を立案しようというものであるが、本計画の公表を見ると、おそらく、そのことは市民に広く周知されていなかったのではないかと感じる。 ・自治体行政の長期ビジョンと事業計画を広報、ホームページで公開されている点は評価するが、計画名称も含めわかりやすくという意見もあるが、本計画のような内容に関しては、興味と意見を持つ市民は限られており、形式的に多数の参加を募るよりは、少数者であっても濃密で深い議論がなされ、その内容を一般に公開する方が実践的と考える。 ・まち・ひと・しごと創生会議の内容をホームページで公表、さらにパブリックコメントの実施前に広報、ホームページで情報提供するなど形式は整えているが、市民の関心や興味を引く情報提供の方法に創意工夫が必要であったのではないかと感じる。

④ 改善点について

<p>〈各委員からの意見〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法律の主旨を、もう少しうまくかみ砕いて、市民にわかりやすい情報として提供して、市民の関心を喚起し、これからの流山市の人口対策や地域振興について市民からの声を聞いて、総合計画に反映させる工夫があってもよかったのではないかと感じる。 ・市民参加の対象でない事業に対し、市民参加の手法を積極的に実施したことは評価できるが、市民参加の手法を用いるのであれば、中途半端になることのないようしっかり市民の声を吸い上げる努力をしてもらいたい。この点をふまえ、平成32年度からの新計画の立案時にぜひ、市民の声をより多く取り入れるよう努力をされたい。 ・計画名称が長く、あまりにも漠然的でパブリックコメントも、市民は、計画内容を理解するには難しい内容だったのではないかと感じる。そのため、説明会や勉強会を実施した方が、市の活性化効果も得られるし、市民に理解が得られたのではないかと考える。特に、つくばエクスプレの開発中でもある流山市は、色々な意味で今がチャンスであり、まちづくりの先進地の事例を取り入れるチャンスでもあるため、市民からの意見を聞きぜひ生かすべきだったような事業だったのではないかと感じる。 ・内容の不確かさ、高度差に応じて、市民参加に何を期待するのか、すなわち形式的な周知なのか（意見の有無に拘わらず市の行政の方向性を知っておいてもらいたいのか）、民意の動向を把握したいのか（計画案の妥当性や市民ニーズとの一致などをチェックをしたいのか）、市民の真摯な議論と意見を反映したいのか（一部であっても自治行政に関する深い興味と知見を有する市民の意見を聴取したいのか）をまず検討して、市民参加の方法、スケジュール、情報提供の在り方をプランニングすべきと考える。

⑤ 当該事業の評価について

A -	+ B -	+ C -	+ D -
-----	--------------	-------	-------